

14NJに参加して

イルカ班 北名古屋1団

高柳伸悟

二〇〇六年8月2日～8日まで14NJに参加してきました。

ジャンボリーで思い出に残った所といえば、野外プログラムで行った海です。

自分は海きらいなんですけど、班のみんなにさそわれてけっきょく海に入ってしまったけど入ってみるとそれなりに楽しく海水浴をしたり、岩にのぼったり、寝ながら日焼けしたりしてとてもよかったです。

あとは閉会式は忘れられません。「ハーツグロー」や「アフロマニア」のコンサートで熱くなって、ひさしぶりにはしゃいで最高の思い出になってとてもよかったです。

班長の仕事はそれなりに班員をまとめるのはとてもキツかったけど今ではよい思い出になった。

次回も行きたいです。

14NJを終えて：

イルカ班 江南2団

暮石有佑

僕は最初「ジャンボリー」というものに行く気は全然なかった。むしろこんな面倒なことやってくれるか的な考えをしていた。しかし、元隊の隊長など色々な人に言葉を掛けられ、しようがなく参加することを決めた。

事前訓練が始まり、何となく自分でも意識が出てきて、しっかりと活動にも取り組んだ。その成果もあってジャンボー本番、立ちかま造りやテントなどの設営に困ることはなかった。ただ、一週間となるとさすがに立ちかまなどは崩れかけてきたりして、もう少し丈夫に造ることができるようにならないといけないかと思った。

この一週間のキャンプ生活で学んだこととして、一番に人との関わりだと思った。他県や外国の人など、さまざまな人とふれあうことができた。また、自分の技能面でも一歩成長できたんじゃないかと思う。こういうことが多かったので一週間がとても短く感じた。できるならもう一度参加したいと思った。

日本ジャンボリーに参加して

イルカ班 江南1団

根崎和彰

ぼくはこのジャンボリーに参加して楽しかったことはたくさんありますがその中から一つ紹介したいと思います。

それはたくさんの人たちと仲よくすごせたことです。集まったばかりのときは、知らない人ばかりだったので話しかけにくかったり緊張したりしていましたが、何度か次前訓練をしたことでだんだんうちとけてきました。

そして本番の六泊七日間いっしょに生活していくうちに、さらに仲良くなっていきました。時には雑用として使われ大変でした。暑い日もあり倒れる人もでてきました。しかし、

ぼくたちの班の人は、あまり倒れませんでした。毎日生活しているうちに自分のテントが本当の家のように思えてきました。でもたまに家に帰りたくなるようなことがよくありますがその気持ちをおさえこんでがんばりました。こうして生活しているうちに閉会式がおとずれました。みんなつかれがのこっていないぐらい盛り上がっていました。

今回のジャンボリーに参加できてよかったです。

日本ジャンボリーの感想

イーグル班 江南2団

森本達哉

今回の日本ジャンボリーは僕にとって貴重な体験になりました。大変なこともたくさんあったけど楽しい出来事もたくさんありました。やはり、こういう機会を持てると、ボーイスカウトの活動をしていて良かったなあと思います。いろいろな人との交流や自然の中での活動などは学ぶこともおおく、これからの生活に生かしていけると思います。

日本ジャンボリーでの出来事には、それぞれに思い入れがあつて、どれが一番かと聞かれてもなかなか答えにくいけれど、特に印象に残ったいくつかをあげてみれば、仲間たちとの毎日の食事作りだったり、他の地域から来ているスカウトたちとの交流とかが、とても強く印象に残っています。大変だった一週間は充実した一週間でもありました。

第14回日本ジャンボリー

イーグル班 犬山3団

島村隼人

この6泊7日の日本ジャンボリーはとても心に残るいい思い出になりました。

最初にキャンプをやったとき楽しかったのでさらに早く行きたくなりました。

そして当日、朝早くとてもねむかったけどこれからいけるという気持ちがあねむけもなくしました。バスの中で少し寝ただけで石川県についたときも何故かとてもねむかったのを今でも覚えています。

さらに7SCの入口からキャンプ地は、とても遠くトイレとシャワーは近かったものの入口からとても距離が大変でした。

テントの中の宿泊もなかなか大変でした。油断していたら虫とか入って来てものすごくうつとおしかったです。そして無事に6泊7日のジャンボリーを終えることができたのでとても良かったです。今度は、奉仕隊としてがんばって生きたいと思いました。

14NJに参加して

イーグル班 北名古屋1団

太田将成

僕は14回日本ジャンボリーに参加しました。

バスで6時間もかかりましたが、これから楽しみなジャンボリーが始まると思うと時間がとても短く感じました。

バスを降りるとグラウンドのようなキャンプサイトが広がっていました。しかし次の日に

なるとそこは小さな町のようになっていました。降りた所からは遠かったのですが、シャワーやトイレが近く、隊長のくじ運がよかったのだと思いました。特にトイレが水洗だったことがよかったです。

大集会では皇太子様、野口宇宙飛行士を見ました。一生に一度見れるか見れないかぐらいの人なので、とてもうれしかったです。

四日目にエキスカーションプログラムで時国家などに行きました。お寺でおみくじを引くと小吉でしたが、小槌が入っていました。小吉は少しショックでしたが、楽しかったです。

交換大会みたいのを開き、日本中の人といろいろな交換しました。外国スカウトとも交換できてよかったです。

帰りのバスでトランプをやりました。財布にお寺にもらった小槌を入れてふると良いカードばかりができてびっくりしました。7日間という長いキャンプでしたが、友達と楽しく過ごしていると3日ぐらいに感じました。とても楽しかったです。

第14回日本ジャンボリー

イーグル班

江南3団

伊神健人

僕は今回14NJ日本ジャンボリーに参加して多くの事を手にし、多くの事を学んだと思います。

僕は石川県珠洲市で1週間誰か知らない人達とキャンプするのは正直嫌だったし、1週間生きていけるか自信が無くてジャンボリーに行くかちよつぱり悩みました。

でも、行く事にしました。行って駄目ならそこまでだと思っただけです。駄目元で行って何とか1週間大きな怪我もせず、行けたと思えました。

ジャンボリーに行って友達がいっぱい増えました。友達と言っても1週間一緒に生活してカンペキな友達かは分からないけど、僕は友達をたくさん持てたと思えました。

最後に、僕は14NJ日本ジャンボリーに行って良かったと思えました。

14NJ

イーグル班

江南1団

忽那和輝

ぼくは8月2日から8月8日まで14NJがありました。

ぼくは7サブキャンプ場で木がはえていなくとても暑かったです。

あつたことは、ジャンボリー大集会やハイク、源平合戦を調べたり、開会式、閉会式、などありました。

ジャンボリー大集会では、各サブキャンプの演技がありました。

あと、外国スカウトやガールスカウトの演技もありました。

源平合戦を調べることは、ほとんどの時間はスーパースターにいました。

あと、ほかの県のスカウトといろいろな物を交換しました。

ぼくが、交換しよう思ったものは、ワッペンやオセロです。

ぼくは、この14NJを忘れません。

ほかの団との人たちと班をつくって、交流をもてたことは、とてもたのしい体験でした。次のジャンボリーにも、ぜひ参加したいです。

ありがとう日本ジャンボリー

木(ボク)班 江南3団

伊藤功真

僕は今回日本ジャンボリーに参加して、とても自分のためになったと思いました。さらに、ジャンボリーのさまざまな活動を非常に楽しく行うことができ、日頃できないいろいろな体験をすることができました。また、学ぶことも大変多く本当に参加して良かったと思います。

さまざまな活動のなかで、特に印象に残ったものをあげると、エキスカシオンプログラムの「能登に生きる生物」に参加したことです。このプログラムには、海の生物を観察するため長い時間泳ぎことができ、日焼けで体が真っ黒になりました。

また、ウォークラリーでは、地図が大変難しく、最初からルートの間違えそうになり、とても苦労したが偶然正しいルートが見つけることができ、最後までゴールすることができました。

木(ボク)班の班長として、班のみんなと一週間を楽しく過ごせたことが一番の思い出です。

14NJをやって

木(ボク)班 江南3団

石原拓弥

僕は、14NJをやる前は、少しきんちようしていました。でもやっているうちに、なれてあまりしませんでした。

14NJで一番よかったと思えたのは、閉会式です。けっこうおもしろかったです。ウォークラリーは、つかれまくって暑いしまさに、病気になるそうなくらいでした。

僕は、14NJをやって、とても本当にやれてよかったと思います。人生に多分一度だけしか味わえない体験ができてありがとうございました。

第14回日本ジャンボリー

木(ボク)班 江南1団

生駒隼揮

今回参加した日本ジャンボリーは、ボイスカウトに入ってから行けない年齢だと思っ

てあきらめていたのに、ギリギリ行けることになってすごくうれしかったです。

最初は原隊の班で行くと思っていたので、ビックリしました。最初

はじめて木班の人とあったときは、うまくやれるか心配だったけどジャンボリー当日ま

でのくんれんがなくなれて当日もうまくいったと思います。

ジャンボリー一日目は、ずっと設営でただの荒地が、だいぶキャンプ地らしくなりまし

た。選択プログラムで海に行き泳いだのと、閉会式の前後のライブがすごく楽しかったです。ライブは、ハーツグロ―とアフロマニアの2組が来ました。ぼくはライブがはじめてだったので、たのしかったです。

火おこしゲームもやったけど、すごく早かったがまちがえて失格になってしまいました。でもすごく楽しい6泊7日でした。

14NJに参加して

木(ボク)班 北名古屋1団

前田健太郎

初め14Nと聞いたとき僕は期間が長く荷物が多く大変だな〜と思いました。でも、ジャンポリーを終えて今思えばなんでそんなことを考えたのかおかしく思います。

ジャンポリー生活の中で一番良かったことは、友達がたくさんできて多くのスカウトとふれあえた事です。

また、たち釜など普段の活動ではあまり作らないものを作れたりしてとても勉強になりました。

ジャンポリーの期間中スカウトショップに寄るといつも人がごった返してとても賑わっていました。中にはおかし「ソイジョイ」をただで十個ぐらいくれた気前のいい店員さんもいました。うれしかったです。

ほかにもいろいろな体験をしましたが、その中で一番印象深かったのが「海辺の生物を観察しよう」というプログラムで、観察をするはずがなぜか海水浴になってしまった事です。

その海水浴で体がめっちゃくちゃ焼けてしまってヒリヒリしました。なので午後は海から出て日陰で先輩とトランプをしました。むしろそちらのほうが楽しかった気がします。

四年後行く機会があればぼくは是非参加したいです。思い出に残るジャンポリーでした。

自然での生活

64班

北名古屋2団

植手恒丞

このジャンポリーがあつたまでに、かなりの訓練が必要でした。その結果がだされました。まず1日目まだジャンポリーは始まっていません。まずはテント作りからです。これから生活する家となりました。2日目の夜は、ついにジャンポリーがついに始まりました。三日目のプログラムは海の生物を観察することでしたが、あまりよく見れませんでした。4日目そして5日目、ハイクや様々なスカウトとの出会いなど貴重な体験をしていきました。そして6日目を向かいます。明日でこの地ともお別れになります。ここであつたことは決して忘れることはないです。むしろそれが力となって僕を大きく成長させてくれたと思います。またこれからのスカウト活動にとってもかなり役に立ってくれたと思います。もしも行かなかつたら、多分心の気持ちは変わらないままだったと思います。

一級スカウトとして参加したジャンボリー

64班

江南4団

浦山雄也

僕は散々苦勞して二級を取った。その後、中西副長の指導で一晩で1級の大半を終わらして1級をとった。2級で『ダメッ！』と散々いわれ続けかなり長い間止められていたため、1級を取った時点で菊の課題もかなりおわっていた。残っているものもあと少しでおわるものばかりだった。僕はそんな状態でジャンボリーに参加したのであった。

3月31日、4月1日。第1回目の訓練で僕たちスカウトは自分の班を知ることとなる。このときとても気が合う友達ができた。そいつの名前は山中。いいづらひので山と呼んでいた。

係を決める時間になってなんだかんだで僕は次長になった。このときはまだこの仕事のおかげでどれほどジャンボリーが楽しくなるかなんてわかってなかった。

夕食の時間になった。この日のメニューは焼肉だった。大好物だったので山と一緒にはいいでいたがこの焼肉が僕らの班の最初の試練となってしまう・・・。

火を起こし肉を焼いた。ここまでは最高だった。だがこのあとが最悪だった。

僕の班は野菜ばかり食べるベジタリアンばかりだったのだ。そのせいで1つの班分の肉を僕と山の二人だけで食べることになってしまった。もちろん食べきれないわけが無い。火も弱くなり生焼けの肉をひたすら食べ続けた。まさに地獄だった。前の焼肉で鉄板をもやしてしまったときもつらかったが今回は別の意味でつらかった。このころから僕と山が班の実権を握っていた。

6月10、11日。第2回目の訓練。僕は遅刻して行ったのだがすでに事件が起こっていた。なんと一番仲のよかった山がいない。山の代わりに唐沢が入っていた。

僕が到着したときは立ち釜を作る時間だった。上に載せる竹は配給されたのだがあまりに短くとてもスリムな立ち釜になってしまった。最悪のできだなと思っていたが、なんとほかのところよりも出来がよかった。これにはベンチャーもふくめてみんなびっくりだった。

7月9日。第3回目の訓練。このときは立ち釜を2回も立てなくてはいけなかったので大変だった。このときに僕の班の早川のあだ名がきまった。ぱっとみ鈴木っぽいからずきにした。本人は最初嫌がっていたが結局最後は折れて鈴木になった。

7月16日。第4回目の訓練。この日は立ち釜もうまくできてよかったと思った。しかし、途中で暴風雨に襲われタープが倒れかけ、下は水につかりみんなべたべたになってしまった。

やっぱりボーイは平和には終われないようだ。

結隊式は欠席し壮行会の日になった。集合時間を間違えて遅刻した。立食パーティーみたいな感じだった。

そんなこんなでいろいろあり僕らのジャンボリーが始まった。

初日。僕たちの場所は7SC本部にかなり近い最高の場所だ。しかしクジ運が悪くそのなかでもはしつこのほうになってしまった。重たい荷物をひたすらそこまで運んでいった

のはとてもつらかった。テントも張り、立ち釜を作っていたとき事件は起こった！！どこを探しても僕たちの班の竹が無いのだ！！どうやら間違えて持ってこられていたようだ。

仕方なく間違えて持ってこられた竹で立ち釜をつくった。自分たちの竹には結ぶ所などに印をつけてあったのだが間違えて持ってこられた竹にはそんなものはない。班員みんな協力して立ち釜を作ったのだがやっぱり完成度は完璧ではなかった。けれど班員が指示通り動いてくれた。

この事件で僕の班はかなり団結力のある班になっていた。

2日目。開会式があった。最初の太鼓がすごかった。野口さん、皇太子も来てそこまではもりあがっていた。しかしだんだんしらけていき最後のほうはみんな寝ていた。

3日目。この日は海に行った。みんなで海にめがけて走っていった。だが！！クラゲにみんな刺されてみんな引き返した。とても痛かった。

岩場の深い所にもぐって行ったりして遊んでいたら係員に注意されてちよつと戻った。そこならいいよといっていたのに別の係員がまた注意しにきた。

その後ウニをみつけて採ろうとしたがものすごくしつかりくっついていたので無理だった。そのあと岩場をうろついていると、全体がオレンジ色の石を見つけた。記念に持って帰ることにした。

この日は愛媛の人たちと交流会もした。二つに分かれてやったのだが僕らのほうは1つのテーブルに2つづつ班がつき、合コン状態でやることになった。なぜだか気づいたら僕が司会みたいになっていた。年齢当てクイズではなんと高校生に間違えられた。

こっちはとても盛り上がりがあったのだがもう片方は最悪だったらしい。チーフリングも交換しとても楽しい一日だった。

4日目。この日は宗教儀礼があった。交換したチーフリングを落としてしまいかなり悲しかった。

この日は大集会もあった。とてもおもしろいと聞いていたのでとても期待していた。前のほうに行くために、はやく片付けなどを終わらした僕たちは写真屋を待っていた。残念なことに写真を撮る日がこの日になってしまったのだ。写真屋がかなり遅れてきたので行くのが遅くなり後ろのほうになってしまい、悲しかった。

しかも大集会はともつまらないものだった。ベンチャーは『4年前はとってもよかったのに』とも言っていた。帰るとき迷子が出たのが一番おもしろかったかもしれない。

5日目。この日は各班ごとにプログラムのチケットをもらってそれに行くことになっていた。前日のグリーンバーで決めたのだがそのときに班長が勝手にだれも選んでいないからといって『廃線ハイク』を選んできました。この暑い時にしかも疲れている時にハイキングなんてやりたいわけがない。僕がそのことを班員に伝えると班員もやっぱり嫌だったらしくみんな班長に文句を言いに行ってしまった。ハイク中に別の班の人に僕は声をかけて道を聞くなどいろいろと仕事をしていた。この日以来班員が前にも増して僕についてくる

ようになった。

6日目。閉会式があった。多分一番楽しかったのはこの日だろう。『ハーツグロー』と『アフロマニア』のライブがありみんな我を忘れて飛び跳ねていた。もちろん僕も飛び跳ねまくっていた。

みんな『アフロマニア』と『ハーツグロー』が好きになった。落としたチーフリングも見つかった！！

最終日。片付けを済ましバスで帰っていく。もうそろそろかと思っていたらまだ琵琶湖の横だったのでビックリした。解散式も終わりジャンボリーの仲間ともいよいよお別れだ。みんな『またね』とひたすら言い続けていた。こうして第14回日本ジャンボリーは終わったのだ。

今回のジャンボリーで次長をやってみて班員に前よりは指示を出せるようになったと思う。立ち釜も前よりも上手く作れるようになった。

たくさんの経験、体験、そしてなによりとてもたくさんの友達を得ることのできた今回のジャンボリーはとても充実したものだ。この楽しさを原隊の班員に伝えると共にジャンボリーに参加するスカウトを増やしていこうと思う。

ちなみに僕は特に仲がよかった友達と夏休みにたくさん遊んでいる。

ジャンボリー

64班

北名古屋2団

大野天寛

「ジャンボリーに行きたいやつはいないか？」この言葉が、第1回目のチャンスの言葉だった。だけど、このチャンスは、のがしてしまった。なぜかというところ、その時は、「部活あるからいなくていいや。」と、部活を休んで行く気などなかった。しかし、そんな自分を行く気にさせてくれたのが、1本の電話だった。「1人欠員ができたので、行きませんか？」この電話と、親のおしで、行こうと思った。

当日、行くまえに目標を1つたてた。「たちかまを完璧にする。」この目標をたてたときはこれからおこる災難にきずいていなかった。会場について、さあたちかまを作るぞ。と思ったときだった。なんと、材料がたりない！急ぎよタープのぼうにロープをつけて、補強した。でも、数日後ぶじ新しい竹が来て完成。このことがあって2回もたちかまづくりができた。

また、きかいがあつたら行きたい。

ジャンボリー

64班

北名古屋1団

五十嵐雅人

ぼくは、ジャンボリーにいきました。さいしよはいきたくないと思つたがいつたらいいかと面白かった。バスで約7時間ぐらいかかって石川県にいきました。石川県はすごくあつかった。二日目は、開会式でした。開会式はいろいろなおどりや、いろいろなげいをやっついて面白かった。三日目は海にいった。海にはいろいろな海藻があつた。友達と海藻を

なぜあったり、陸にあげてかわかしていた。すごく面白かった。あと海にはいろいろな魚がいた。クラゲもいた。しらない人は高い岩からとびこんでいた。そこにはクラゲがいっぱいいたらしくて多くの人がクラゲにさされたらしい。ぼくはさされそうになったけどさされなかった。あと海水を多く飲んでしまったから、きもちわるくなつた。四日目の朝は宗教儀礼をしました。その中のほとんどの人が、仏教でした。五日目はほとんど、プログラムでつかれました。六日目はハイキングにいきました。片道5キロメートルでごうけい10キロメートルもせんろの上をあるきました。いがいと面白かった。夜間に閉会式をやった。閉会式はいろいろなおどりやうたがやっていた。すごく楽しかった。ぼくはジャンボリーにいつてよかったと思つた。なぜかという友達いっぱいできたりしらないことがみにつくからです。きてほんとうによかったですこんどのジャンボリーにいけたらいいと思います。

日本ジャンボリーの思い出

64班

江南1団

早川翔太

ぼくは8月2日から8日まで、石川県珠洲市に日本ジャンボリーに行きました。その中で一つ思い出があります。

一つめは、能登に活きる生物というプログラムで、海でおよぎました。午前中は沖へいったり、石を集めてぼうはていをつくったりおちていたペットボトルを使って穴をほったりしていました。

そして午後は、ほかの班の班長や次長といっしょに、岩のある所ですもぐりをしていました。すもぐりしていると小さな魚がたくさんおよいでいました。

すもぐりの内容はもぐって底の石や砂をとってくるという内容で、あそんでいました。海はふかくてなかなかとつてこられずにくせんしていました。

そして、岩の間にウニがいて、海底から木のぼうをもってきて、それをとろうとしました。しかしウニはへばりついてなかなかとれずに、時間がきてしまい、もどろうとすると、次々にほかの友達がクラゲにさされました。

しかしその時うんよく、クラゲにはさされませんでしたその時僕は、「よかった」と思いました。

日本ジャンボリーは少し長かったけどたのしかったです。